



食を必要とする "1人"のために



特定非営利活動法人フードバンク TAMA

〒191-0062 日野市多摩平 5-3-2

プレジャーガーデン豊田式番館 101

TEL:080-6814-3657

Email: foodbank.tama@gmail.com

4年目に突入！（神山理事長挨拶）

2016年に立ち上げ早いもので3年が経ちます。色々な方と出会いここまでできました。思い起こせばご縁があって現事務局長と出会い、意気投合して軽い気持ちでスタートしたのが始まりです。当時は何をやって良いのか解らず手探りでした。食料品を集めるにはどうするのか、集めた食料品は何処に、誰を対象にすれば良いのか等、時間をかけて話し合いました。

そして「子ども達最優先」地域の子供達をサポートする事を旗印に無我夢中で走り出しました。立ち上げメンバーにも恵まれそれぞれの得意分野を生かして NPO 法人申請・取得、その後日野市社会福祉協議会との協定締結、日野市から倉庫等の支援を頂いて順調な活動が出来てきました。

シンポジウムも毎年二回と日野市・八王子市で開催が出来、一般市民の皆様にも少しずつですが認知される様になりました。会を重ねる毎に登壇者の生の声を聞いて、現状の認識と厳しさを知り身が引き締まる思いでいます。しかしながら厳しい事ばかりではありません。会合を機に新しいボランティアの方々も増え、メンバーには様々な経歴の方がいて作業にも厚みが出てまいりました。TAMA の名の通り、日野・八王子・町田・立川・多摩・昭島市等三多摩地域に根差した活動に広がり、各市の社協とも協力体制が出来ました。

今後は貧困の連鎖を断ち切る為に、子ども達には学習支援も手厚くサポートしていきたいと考えております。その一環として昨年は補助金等の補填もあり、単年度ではありますが独自で無料塾を立ち上げました。本年度以降は、市内の無料塾と連携してボランティア講師の派遣や、食料品の援助を通じて子供達の学ぶ力や生活の底上げにお手伝い出来たらと考えております。

ひとり親家庭への支援は引き続き行っていますが、何時までも同じ家庭への対応でよいのか、他にも困っている家庭があるのでどの様なタイミングでどう対応していくのかは各団体の方々と更に話し合い詰めて行かなければならない課題です。この様に、知れば知るほど、色々な物が足らず、TAMA の活動もまだまだ微力です。焼け石に水の状態かもしれません。ですが、出来る人が出来る時に出来る事を少しでも行う事によって、救われる家庭もあるはずと信じて行動して行きます。

これからも身の丈に合った活動を通じて、子供達が将来の夢を語るそんな魅力ある多摩地域になる様に、ボランティアスタッフ一同頑張っています。引き続き皆様方のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

お腹いっぱい食べられない子どもたち・・・

私が子どもの貧困問題について知ったのは6年ほど前になります。NHKの朝のニュースの特集だと記憶しています。その時の衝撃は強烈で、今でも忘れることはできません。

当時は、管理栄養士という立場で、企業で健診後にメタボリックシンドロームの判定を受けた社員に対して、改善を促す保健指導という仕事をしていました。脱メタボのために食生活の改善目標を立ててプログラムを進めていきます。

当然過飲食だけがメタボの原因ではなく、ストレスや睡眠や労働時間等も影響するわけですが、多くは「食べ過ぎ」「飲み過ぎ」の改善を促します。

こういう仕事環境にいた中で、映像の「お腹いっぱい食べられない子どもたちがいる」「そのために成長障害を来している」という事実は、栄養士としてショックで涙が溢れました。

その後、貧困の子ども達のために何かできないかと考えていたところ、「はちおうじ子ども食堂」が立ち上がり、

お手伝いをするようになりました。

そして、数年後、フードバンク TAMA が設立されるに伴い、理事という立場となりました。微力ですが間接的にも子ども達に関わることができるようになりました。

ところで、こうして「ボランティア」としてはまだまだ初心者の私は、時々「ボランティアとは何なのか？」と考えることがあります。「〇〇をしてあげている」とつついっい驕ってしまいがちで、特に多忙で時間がないとそういう嫌な意識が芽生えやすくなります。

ボランティアは、受ける方が喜んでもらえることがやりがいとなりモチベーションを高めるわけですが、結局は自分自身の幸福感のためにやっているのかとも感じるようになりました。

今後もフードバンク TAMA を通して、1人でも多くの子ども達の栄養状態が多少でも改善できるようにと祈り、活動を続けていきたいと思っています。

早川 洋子（理事）

食品企業様や個人の方から多くの食品が届けられました。ありがとうございました。

受贈 ▶ 主食 : 5022 キロ 飲料 : 2555 キロ 缶詰 : 2111 キロ 野菜 : 3022 キロ 菓子等 : 1601 キロ 調味料 : 1211 キロ

2018.10 ~ 2019.3 の間、児童福祉施設等へ寄付した食品の種類と量

提供 ▶ 主食 : 5091 キロ 飲料 : 2542 キロ 缶詰 : 2300 キロ 野菜 : 2983 キロ 菓子等 : 1518 キロ 調味料 : 1324 キロ

広がる食の支援！ 輪・輪・輪！！

多摩市社会福祉協議会（多摩社協）では、不慮の出来事などで急に出費を要し、それにより日常生活に困る方等に、資金の貸付を行っています。しかしながら、条件確認などがあり貸付までに少し時間がかかります。

この隙間を埋めるために、緊急支援の一つとして5年前から、食の給付（2～3日程度分の緊急支援）を始めました。

食品は市民に寄付を募っています（フードドライブ）。また、市内には子ども・誰でも食堂が10カ所ほどあり、ご寄付いただいた食品は食堂を運営する団体にも配布しています。

最近では多摩市内の社会福祉法人や企業などにも食の支援の輪が広がり、社会福祉法人では「それぞれが行う季節行事等でフードドライブを実施」、企業では「災害用の備蓄品の入れ替え時に食品を寄付」「イベント粗品（カップ麺やレトルト食品等）の余りを寄付」「社員に食品の提供を呼びかけ」「お菓子の寄付箱を店に設置（パチンコ店）」

など、様々なかたちでご協力をいただいています。

このような取り組みの中、日野社協からフードバンク TAMA を紹介いただき、支援活動の輪がさらに広がりました。特に、生活協同組合パルシステム東京より相談を受けていた「一般家庭に配達する野菜や果物の余剰分の活用」について、その受入れ先となっていただきました。

今年の4月より、当時は都内で初の試みとなる取り組みがスタートし、野菜等の生鮮品がフードバンク TAMA を通じ、子ども食堂等へ配布することが可能となりました。

一人親のご家庭や子ども食堂運営団体等から非常に喜ばれ、「だれも一人ぼっちにしない」地域の居場所づくり！」をはじめとした食の支援活動をすすめる一助となっています。

今後さらにさらに支援の輪を広げていくために、フードバンク TAMA のお力添えをいただきながら、多摩社協としてできる取り組みを行っていききたいと思います。

大久保 雅司（多摩市社会福祉協議会）

私とボランティア

私は3年ほど前から子ども食堂のスタッフとして活動をしてきました。それまでは、社会教育、家庭教育、福祉の分野で20年以上ボランティアとして関わってきました。

子育てで悩む親の話の聞いたり、一緒に学んだり、また高齢者の見守り活動を通して、多世代の方たちに触れる機会にも恵まれました。そこで繋がった人たちとの絆は時を超えても途絶えることはありません。一方、家族構成に伴って生活の形が変化している姿も見えてきました。

子どもたちがやってくる食堂は一軒家の民家で、玄関をガラガラと開けると、スタッフが笑顔で迎えます。大人も子どもも一緒に食べます。農家さんからいただいた野菜や果物、素材を大切に、味付けや調理に変化をつけながら、時には見慣れない野菜が登場することもあり、何が出てくるかはお楽しみという色々な食べ物が食卓に並びます。

昭和の家族団らんのような、みんなと一緒に楽しく、おいしく食べる体験を大切にしています。

現在、子ども食堂は全国に広がり、それを支えているのがフードバンクと言われています。企業や市民の皆様からご提供いただいた貴重な調味料や食料は、フードバンクを通して届きます。その後子ども食堂のスタッフが工夫を凝らして子どもたちへ提供します。

皆さんは、人間にとって貧困とは何だと思いませんか？ 子どもにとっての貧困とは、何だと思いませんか？ 見える貧困、見えない貧困があるのをご存じですか？ その答えは一つではありませんが、ご自分の経験や生活の中で改めて考えてみるのが支援の第一歩なのかもしれません。

私はボランティアという形で、色々な活動をしてきましたが、これからも一歩ずつ、無理せずできることをコツコツと続けて行きたいと思っています。日頃からお世話になっているフードバンク TAMA の皆様の活動に感謝しつつ、市民の一人がこの活動と出会い、フードバンクと繋がり、食堂への支援となり、また市民の誰かに繋がっていくことを願っています。

石渡ひかる（ボランティア：八王子市在住）